

# プロセブン

1

## 強烈な揺れ

その朝、のちにプロセブン(大阪市天王寺区)社長となる小玉誠三は、愛犬「ラン」のただならぬ声で目を覚ました。血相を変え、うなり声を上げながら小玉の掛け布団に爪をかけるラン。布団カバーは瞬く

間にボロボロになった。トイレに行きたいランが早朝に小玉を起すのは珍しい事ではなかったが、それにしては様子がおかしい。

「何だこいつは」。寝ぼけ眼の小玉が布団に潜ってやり過ぎそうとしたとき、強烈な揺れが小玉を襲った。1995年1月17日5時46分52秒。

死者・行方不明者6000人を超える、阪神・淡路大震災が発生した瞬間だった。

小玉は当時、大阪府高槻

## 阪神大震災で天啓



阪神大震災で倒れた阪神高速道路

をしていた。「そういえばあいつの家は神戸だったな」。小玉は嫌な胸騒ぎを抑えられなかった。

## 残酷な現実

震災による道路の寸断と極度の渋滞で、小玉が神戸市長田区にある友人宅にたどり着いたのは1月19日だった。友人の家は倒壊を免れており小玉は安心したが、震災後の混乱のため友人の行方は分からなかった。

から復旧しテレビやラジオを通じて情報が入り始めると、震源に近い神戸市が極度の混乱状態にあることが伝わってきた。「これは大変なことになった。事態の重要性を認識した小玉の脳裏に、一人の男の顔が浮かぶ。20年

た。それからさらに3日後の22日、小玉は友人の妻らに会い友人が亡くなった事実を知らされる。「飛んできたタンスに頭を打たれた」と涙ながらに語る友人の妻。「家が無事なのに。タンスが飛ぶなんてそんなバカなことがあるか」と小玉はいら立ったが、縦揺れと横揺れが同時発生した震災では同様の被害が多く発生していた。納得できない小玉だったが、包帯巻きにされた友人の遺体を前にして、残酷な現実を思い知らされる。「どれだけ香典を包んでもこいつは生き返らない。どれだけお金があっても地震は防げない」。自然に対する無力さに胸が締め付けられる思いだった。

## 飛ぶタンス

遺体の横では、遺児たちが泣きじゃくっていた。「私たちは無事なのに、お父さんだけいなくなっちゃ

# 被災地の子供たちに誓う

中小企業のものかたり

勝つ

中堅・中小・ベンチャー

この約束が、震度7の地震に耐える耐震マット「プロセブン」開発の始まりだった。(敬称略)

▽所在地 大阪府天王寺区清水谷町3の19、06・6191・3810 社長 小玉誠三氏 従業員 29人  
 ▽資本金 6738万円  
 ▽売上高 約10億円(12年3月期)  
 ▽URL www.p-to-7.co.jp/